

「天国が近づいた」

—マタイによる福音書講解説教 48—

詩篇

第50篇 1節～6節

マタイによる福音書

第10章 1節～15節

説教 岡村 恒牧師

「行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。」(7節)この主イエス・キリストの命令が発せられてから、この一つのことを、大胆に宣べ伝えられ、今日もこの聖堂に響いています。

主イエス・キリストは、汚れた霊を追い出して人々を解放し、あらゆる病氣、あらゆるわずらいをいやしてこられました。人々は、主イエスの奇跡を目の当たりにして、このお方がいったいどなたで、いったい何の力を持っておられるのか、本当に世の終わりがやって来たのかと、不思議に思いました。

主イエスが十二弟子に特別な力を委ねて派遣する準備が、マタイによる福音書10章全体に記されていますが、この発端は9章36節でした。「また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれました。」神ご自身もまた、私たちを深く憐れんで下さいました。全知全能の神が、ご自身の力を、主イエスを通して弟子たちにまでお委ねになったのはこの憐れみによります。天国というのは死んだ者が行く場所の話ではありません。〈神の王国〉、〈神の支配〉という言葉です。神以外の何ものも、もはや私たちに力を振るうことができない、という話です。

私たちは確かに、この地上を歩む間は肉体に捕らわれていて、罪と死の奴隷のような姿をしています。神の御心に適う歩みをしたいと願いながら、まるで今なお、罪と死の力に支配されているかのようにさまよい歩きます。しかし聖書は、主イエスの死と復活とによって、私たちはもう既に神の支配の下に移されていると宣言します。この事実がはっきり分かるようになるために、主イエスは十二弟子を派遣して、神の国の力を、人々にお見せになったのです。

神の国の到来という〈福音＝良い知らせ〉はただ一人の人によって持ち運ばれることなく、弟子たちを通して、神の民全体に向かって宣べ伝えられました。これは今日でも変わりません。

「その家にはいったなら、平安を祈ってあげなさい。もし平安を受けるにふさわしい家であれば、あなたがたの祈る平安はその家に来るであろう。もしふさわしくなければ、その平安はあなたがたに帰って来るであろう。」(12節、13節)この言葉は、ここにいる私たちに向かって語られています。共に信仰を抱く友と一緒に出かけに行って、神の国の到来を語り、ふさわ

しい所であればそこに留まって平安を祈り、また別の場所に移って語り続けたら良いのです。十二弟子というのは、神の民イスラエルの十二部族に対応しています。主イエスはこの十二人をまず選び、おそばにおいて語りかけ、神の国の力を間近で見せ、体験させ、準備ができたところで派遣されました。

教会に集められた私たちも同じです。主イエスによって選び出され、主のそばにおかれました。人が信仰を与えられて、罪の赦しの洗礼を受けて救われるという、神の奇跡を見せて頂き、整えられているのです。かたわらにいる信仰者と共に、主のそばにおかれ、食卓を囲みながらこの地上の旅を歩んでいます。そうして用意ができたところで、それぞれに与えられた人生の旅路へと遣わされて行きます。神がお選びくださった神の民が、私たちの行く先々に大勢いるのです。そこで、この一言を宣べ伝えて生きよ、と主は言われるのです。「天国が近づいた。」

このために、私たちは何も持たずに出かけて行ったら良い、と主は言われます。人を悔い改めさせ、信仰に導くものは、私たちが手にする余分なものではなく、神の御言葉だけです。神ご自身の聖霊が、力強く働いて下さるのです。

私たちは、愛する者を地上から見送るたびに、信仰を与えられて地上を旅し、歩み終えることが、どれほど恵みと希望に満ちたものであるか、繰り返し確認してきました。死でさえも、私たちに主イエスから引き離すことはできないのです。私たちはもう既に神の国に移され、神の力に包み込まれて生きているからです。

この地上を旅するために必要な全てが、既に主イエスによって語られ、与えられています。神の憐れみによって地上に来られた主イエスは、弟子たちを派遣して、私たちを信仰へと導いて下さいました。神の民とされた恵みと、主の弟子とされ主の恵みを証しする務めを与えられている幸いを、私たちすべての者に味わわせて下さいます。そのために、主は今この時も、私たちを恵みの食卓へと招き、信仰を与えて支え励ましておられます。主イエスのものとして生かされ、派遣されている私たち教会を、主イエスはこれからも確かに支え、祝福して、主のみ業を成就して下さいます。一日一日、この事実を味わい、噛みしめながら歩みましょう。

(記 岡村 恒)